

新しい学校教育目標に込めた願い

主幹教諭 安達 雅美

この度の学習指導要領改訂の主旨を受けて、この先10年先を見据えためざす真養の子ども像である新しい学校教育目標について話し合いました。新しい学習指導要領の総則には、今後10年先の社会は、めまぐるしく変化することが予想され、予測は困難であると示しています。確かに、近年の授業では、様々な科学技術革新のおかげでタブレットがノートや辞書、コミュニケーションの代替手段になり、またネット回線を使って遠隔地と交流授業を行うなど、教育の環境も10年前とは大きく変化しています。

さて、子どもたちが、今後社会で生きていく上で、様々な困難さに対峙することが考えられます。そうした社会においても、常に子ども自身が生活の主体者になり、自分の街で自分らしく生きることを叶えて欲しい、また、多様性が受け入れられる社会となり、真養の子どもが持っている力を発揮し、価値ある存在になることが願いであることを確認しました。

このような願いのもと、めざす真養の子ども像について話し合いをした結果、キーワードは、「自分」になりました。例えば、困難さに向き合った時、その解決方法を自分で考え、どうしたらよいかを自分で選んだり、判断したりし、自分から伝えることができれば良いなあ！また、こうした行動には、きっと勇気がいるだろうし、行動した結果、落ち込むこともあるかもしれないけれど、人とつながる力を発揮して、たくましくしなやかな心持ちで解決しようとする姿勢を育てたいとの話し合いに至りました。こうした力は、文部科学省が示す資質・能力の柱の1つである「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力」に相当します。新しい学校教育目標は、この力に焦点をあててはどうかという結論に達し、学校長に提案、承認され、「**人とのつながりを大切にし、自分の考えを持ち、自分の考えを伝え、自分の考えをもとに行動できる人を育てる**」という新しい学校教育目標が誕生しました。

少し前の話になりますが、大泉洋さん主演で「こんな夜更けにバナナかよ」の映画が公開されました。実は、私は約20年前、学生の時分にこの話のモデルである鹿野さんのケアボランティアをさせて頂きました。当時、施設生活が主流でしたので、地域生活に必要な24時間のケアサービスは、もちろん未整備でした。鹿野さん自ら大学や街角に立ち、ボランティアの募集をして生活をつないでいました。鹿野さんは、食べたい物や姿勢、身体の洗い方などに大変細かく指示を出すので、初めの頃は、なかなかついていけず疲弊していました。また、時にはボランティアと本気の言い合いをするので、辞められたら困るのではないかと、そばで見ている冷や冷やしていましたが、鹿野さんは、なんのその。僕と合わないのであれば、探す、と。今、思い返すと、鹿野さんは、自分らしく生きるために必死に支援者だけではなく、自分とも闘っていました。当時の自立生活運動のおかげで、現在は、社会的なサービスは充実しました。だからこそ今、子ども自身が考え、選び・判断し、伝える力が大切になると改めて考えています。

この先10年間、新しい学校教育目標の具現化をめざし、教職員が一丸となり教育活動に努める所存です。今後とも、本校の教育にご理解とご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【 学校教育目標 】

人とのつながりを大切にし、
自分の考えを持ち、
自分の考えを伝え、
自分の考えをもとに行動できる人を育てる。
行動できる人を育てる

【 育てたい力「生きる力の五要素」 】

①決める力 ②見る・聞く・感じる力
③伝える力 ④つながる力 ⑤やる気・元気
子どもたちとも共有したいと考え、やさしい言葉に置き換えました。今後は、英語やサインバージョンも作成する予定です。